

キタムラサキウニ捕食量試験

(要 約)

植 村 康

下北再処理施設等立地予定周辺海域に生息する海産生物に関して、海産生物等の調査、資料の収集、整理、放射性核種の蓄積等に関する調査及び評価を実施し、同施設の立地による放射能影響を評価するための資料を得るとともに、海洋環境放射能総合評価委員会が行う総合評価のための評価基準資料を提供することを目的としている。本試験キタムラサキウニ 個体間の捕食量の変動を明らかにするものである。なお、詳細については「昭和62年度海産生物放射能影響評価調査報告書」(昭和63年3月青森県)で報告した。

1. 昭和62年10月27日、東通村小田野沢地先で潜水で採取した殻径53~72mm、全重量70~176gのキタムラサキウニを使用した。
2. 給餌飼料は生マコンブを使用した。
3. 飼育容器は、内容積約10ℓの丸型スチロール水槽を使用した。
4. ろ過海水かけ流し飼育とし、各水槽に、エアストーンで給気した。
5. 20水槽に1個体ずつキタムラサキウニを収容して飼育した。
6. 捕食量の測定は昭和62年12月21日から開始した(試験継続中)。
7. 飼育水温は3.1~8.1℃であった(昭和62年12月21日~昭和63年3月31日)。
8. 日間摂餌量(乾燥)は0~1.085gであった。
9. 日間摂餌率(乾燥)は0~1.05%であった。
10. 給餌マコンブは室内飼育でも成長が見られ、最大14%(昭和63年3月18日~3月25日、7日間)であった。
11. 飼育キタムラサキウニの全重量に対する消化管内容物の比は平均 $9.72 \pm 0.80\%$ (9.01~10.97%)
殻+口器+消化管の比は $50.57 \pm 2.08\%$ (48.62~53.75%)であった。
12. 日間の増重量は0.044~0.162g、増重率は0.029~0.118%であった。